



令和3年度 矢板市教育委員会の 点検・評価報告書 (令和2年度対象)



矢板市立学校電子図書館
(ともなりライブラリー)



矢板市教育委員会

目 次

はじめに	1
I 教育委員会の点検・評価の概要	3
1 目的	
2 点検・評価の対象	
3 点検・評価の構成	
4 点検・評価の方法	
5 外部評価委員	
6 議会への報告及び公表	
II 教育委員会事務局の組織・事務分掌	4
III 令和2年度教育委員会定例会・臨時会開催状況	5
IV 施策の点検・評価一覧	9
1 小中学校教育の充実	10
2 幼児養育の充実	17
3 まなびの広場の充実	18
4 市民力の実践	19
5 市民のつながりを強める	20
6 推進体制の充実	21
7 文化財の調査・保護・活用	22
8 市民文化の創造	24
9 スポーツ・レクリエーション活動の振興	26
10 青少年の健全育成	28
資 料	
矢板市教育行政事務点検評価委員会設置要綱	31

は じ め に

矢板市教育委員会は、やいた創生未来プラン（令和3年度～令和7年度）に示した「多様な教育環境があるまち」、「スポーツを通じた健康づくりを推進するまち」など、本市のよいところ（特性）を見つめ直し、その特性を生かしたまちづくりを推進するため、矢板市教育行政基本方針に基づき、矢板市生涯学習推進計画5期計画等を策定し、教育行政の推進に取り組んでいます。

学校教育の推進では、「子どものよさを伸ばし、ふるさとを愛する心と自ら学ぶ力を育てる教育の実践」を学校教育の指標に掲げ、市内の小中学校と家庭、学校、地域、関係機関が連携しながら、児童生徒の心身共に健全で生きる力を育む教育施策に取り組んでいます。

また、生涯学習の推進では、矢板市がめざす生涯学習による“まち”づくりの理念である「心に彩り 体に潤い 地域の絆で 未来につなぐ人づくり」のもと、市民一人ひとりが生涯各期で学んだ成果を生かした活動を展開し、人と人、組織と組織などをつなぎ広げることによって、個々の生活の質を高め、個性と活気にあふれた“まち（地域社会）”づくりを実現するために、生涯学習館、矢板、泉、片岡公民館、図書館、郷土資料館、矢板武記念館などの各施設を拠点に、家庭教育、学校教育、社会教育の推進に向け各種事業に取り組んでいます。

教育委員会が行う各種事業や施策については、矢板市教育行政基本方針に基づき、毎年、内部の評価・点検に加え、教育委員会や議会、区長会、家庭教育、文化、スポーツ、青少年等の団体の代表者や学識経験者等で組織する社会教育委員会、公民館運営審議会、図書館協議会の審議を経て次年度の施策を検討し、見直しや改善を行い、具体的な事業内容を計画し、教育要覧にまとめます。

一方、各種事業や施策の執行については、教育委員会事務局の局内会議を開催、事業の進捗状況や事業推進にあたっての問題課題を把握、情報の共有を行い、その都度、成果の評価・点検を行いながら、事業執行や事業改善、修正に努めております。合わせて、会議で出された重要事項などについては、毎月開催する教育委員会定例会で審議し、各種施策の展開を図り、教育行政の推進に努めています。

本報告書は、教育委員会が令和2年度に実施した各種事業について、学識経験者の視点から点検と評価をいただいた内容をまとめたものです。

この点検と評価を市民の皆様に公表し、ご意見等をお寄せいただき、次年度の事業改善、計画づくりに生かし、より充実した教育行政の推進に努めてまいります。

令和3年9月

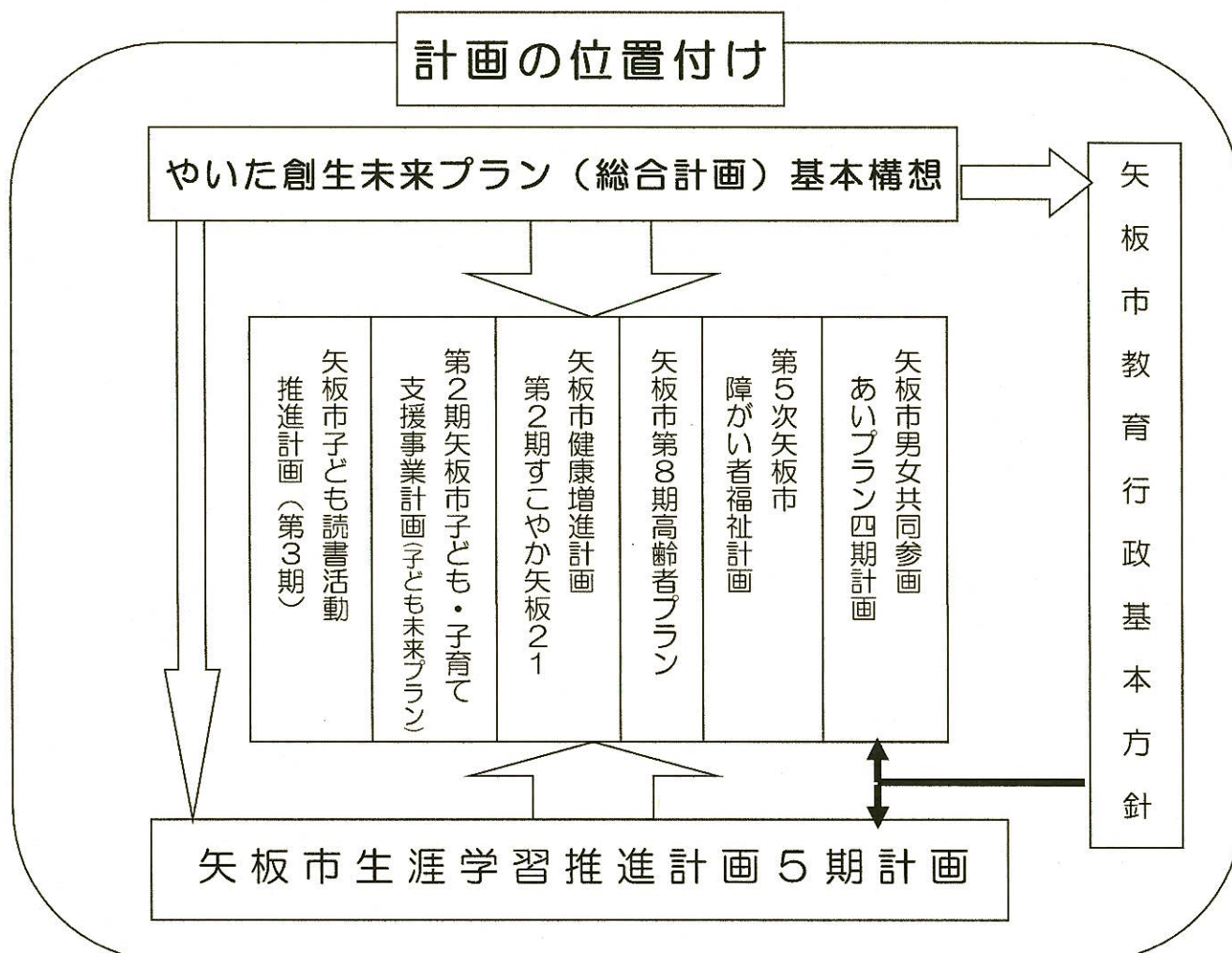
矢板市教育委員会

矢板市教育行政基本方針

- 1 人間尊重の立場に立った豊かな人間性と生きる力を育てる学校教育の充実
- 2 心のふれあいと人と人、組織と組織がつながり合う社会教育の振興
- 3 高原山の自然を背景にしたうるおいのある芸術文化の振興と文化財保護活用の推進
- 4 健康で明るい一人一スポーツの推進
- 5 家庭教育力の向上

矢板市教育委員会は、あらゆる機会を通じて学校教育・社会教育・家庭教育相互の連携と調和を図り、生涯にわたって個性・能力を伸ばし、自己教育力向上のために協力し、継続的な指導の計画を策定し、地域住民全体の合意を得、地域と連携を図りながら、その目的を達成するため上記の項目を掲げ、本市教育行政の推進を図るものである。

計画の位置付け



I 教育委員会の点検・評価の概要

1 目的

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定に基づき、矢板市教育委員会（以下「教育委員会」という。）の権限に属する事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果を公表し、教育行政の適切で効果的な執行等を推進し、合わせて市民に対して矢板市の教育行政の取組について説明責任を図ることを目的としています。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律抜粋（平成27年4月1日施行）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の対象

（1）令和2年度教育委員会活動状況

（2）矢板市教育行政基本方針に基づき、教育委員会が実施した学校教育の振興、生涯学習・社会教育の振興、芸術文化の振興、文化財の保護活用、スポーツ振興に関する令和2年度の各種施策のうち具体的な事務事業の主なもの。

3 点検・評価の構成

矢板市教育行政基本方針に基づく施策体系の視点ごとに次のとおり構成しています。

（1）事業の目的／施策の主なものについて目的を掲載

（2）施策の対象者／施策の対象者を掲載

（3）今年度の目標／施策の主なものについて目標を掲載

（4）施策内容／施策の主なものについて実施状況・実施値等を記載

（5）課題／施策内容に基づき課題を掲載

4 点検・評価の方法

（1）自己評価／各主管課による自己評価を実施

（2）委員評価／評価委員から評価と意見の聴取

5 外部評価委員（学識経験者）

「矢板市教育行政点検評価委員会設置要綱」に基づき、学校教育、社会教育等教育行政に識見を有する評価委員を教育委員会が委嘱します。

＜評価委員＞

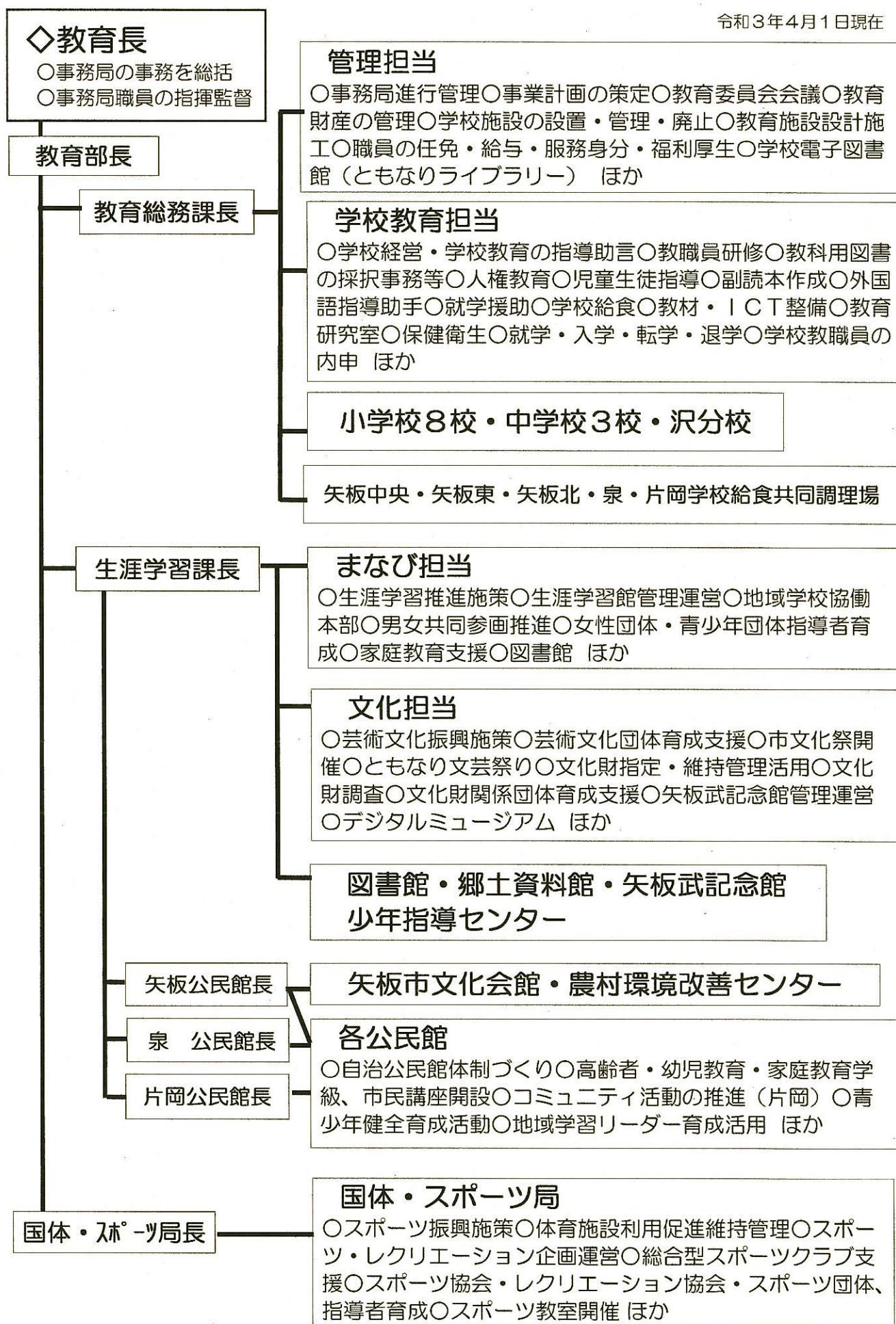
No.	評 価 委 員	職 名
1	石川 幸夫	学識経験者（元矢板小学校長）
2	齋藤 典子	学識経験者（矢板市地域コミュニティづくり推進会議委員）
3	鈴木 康子	学識経験者（元市役所職員）

6 議会への報告及び公表

矢板市議会に報告書を提出するとともに、矢板市公式ホームページに掲載し公表します。

Ⅱ 教育委員会事務局の組織・事務分掌

令和3年4月1日現在



Ⅲ 令和2年度教育委員会定例会・臨時会開催状況

日時・会場	内 容	備 考
定例会 4月20日(月) 午後3時 生涯学習館 2階研修室1	報告事項 (1) 新型コロナウイルス対策について(経過) (2) 学校医について (3) 事業の後援・共催について 議 事 (1) 区域外就学承諾願について (2) 学区外学校就学許可願について (3) 矢板市教育行政基本方針(案)について (4) 矢板市人権教育基本方針(案)について	委 員 5 部長兼課長 1 課 長 1 班 長 1 課長補佐 1 指導主事 3 社教主事 1
定例会 5月18日(月) 午後4時30分 生涯学習館 2階研修室1	報告事項 (1) 長欠児童生徒の推移について (2) 矢板たかはらマラソン大会の中止について (3) 矢板市生涯学習推進計画(5期計画)策定方針について 議 事 (1) 区域外就学承諾願について	委 員 5 部長兼課長 1 課 長 1 班 長 1 課長補佐 1 指導主事 3 社教主事 1
定例会 6月29日(月) 午後3時 生涯学習館 2階研修室1	報告事項 (1) 第362回矢板市議会定例会について (2) 令和元年度要保護準要保護児童生徒認定について (3) 矢板市特色のある学校づくり推進事業の申請状況について (4) 社会教育委員の委嘱について (5) 図書館協議会委員の委嘱について (6) 文化会館の整備について (7) その他 1) 英語DVD製作の発表について 議 事 (1) 学区外学校就学許可願について (2) 区域外就学承諾願について (3) その他 1) 次期教育大綱について	委 員 5 部長兼課長 1 課 長 1 班 長 1 課長補佐 1 指導主事 3 社教主事 1

Ⅲ 令和2年度教育委員会定例会・臨時会開催状況

日時・会場	内 容	備 考
定例会 7月20日(月) 午後3時 生涯学習館 2階研修室1	報告事項 (1) 矢板市文化会財の指定解除について (2) 矢板市農業者トレーニングセンターの名称変更について 議 事 (1) 令和3年度使用中学校用教科用図書の採択について (2) 令和3年度使用小中学校特別支援学級用教科用図書の採択について (3) 区域外就学承諾願について (4) 矢板市GIGAスクール構想の実現について (5) 中学生海外派遣事業について	委 員 3 部長兼課長 1 課 長 1 班 長 1 課長補佐 1 指導主事 3 社教主事 1
定例会 8月17日(月) 午後3時 生涯学習館 2階研修室1	議 事 (1) 区域外就学承諾願について (2) 学区外学校就学許可願について (3) 小規模特認校入学(転入学)申請書について (4) その他 1) 矢板市立小中学校適正規模・適正配置計画について 2) 次期教育大綱について 3) 矢板市GIGAスクールの実現について	委 員 5 部長兼課長 1 課 長 1 班 長 1 課長補佐 1 指導主事 2 社教主事 1
定例会 9月23日(水) 午後3時 生涯学習館 2階研修室2	報告事項 (1) 第364回矢板市議会定例会について (2) 家庭学習ノートコンテストについて (3) 成人式について (4) 郷土資料館運営における今後の方向性について (5) 事業の後援について 議 事 (1) 学区外学校就学許可願について (2) 区域外就学承諾願について	委 員 5 部長兼課長 1 課 長 1 班 長 1 課長補佐 1 指導主事 2 社教主事 1

Ⅲ 令和２年度教育委員会定例会・臨時会開催状況

日時・会場	内 容	備 考
定例会 10月19日(月) 午後3時 生涯学習館 2階研修室2	議 事 (1) 令和元年度「教育委員会の点検・評価」について (2) 事業の後援について 報告事項 (1) 学区外学校就学許可願について (2) 区域外就学承諾願について	委 員 5 部長兼課長 1 班 長 1 課長補佐 1 指導主事 3 社教主事 1
定例会 11月16日(月) 午後3時 生涯学習館 2階研修室2	報告事項 (1) 令和２年度予算要求について (2) 事業の後援について (3) 令和２年度矢板市家庭学習ノートコンテストについて (4) 第22回ともなり文芸祭り応募状況について (5) 山田ミヤコタナゴ生息池生息状況調査報告について (6) 矢板市生涯学習推進計画（5期計画）原案・パブコメ実施報告について 議 事 (1) 学区外学校就学許可願について (2) 区域外就学承諾願について	委 員 4 課 長 1 班 長 1 課長補佐 1 指導主事 2 社教主事 1
定例会 12月15日(火) 午後3時 生涯学習館 2階研修室2	報告事項 (1) 第365回矢板市議会定例会について (2) 家庭学習ノートコンテスト結果報告について (3) 家庭へのタブレット端末の持ち帰りについて (4) 郷土資料館イベント「遊びに行くべ！～お正月遊びを楽しもう～」の開催について 議 事 (1) 学区外学校就学許可願について (2) 区域外就学承諾願について	委 員 5 課 長 1 班 長 1 課長補佐 1 指導主事 3

Ⅲ 令和２年度教育委員会定例会・臨時会開催状況

日時・会場	内 容	備 考
定例会 1月21日(木) 午後3時 生涯学習館 2階研修室2	報告事項 (1) 定例監査について (2) 英検講座の結果について (3) 体育施設のネーミングライツ事業について 議 事 (1) 学区外学校就学許可願について (2) 区域外就学承諾願について	委 員 4 課 長 1 班 長 1 課 長 補 佐 1 指 導 主 事 1 社 教 主 事 1
定例会 2月15日(月) 午後3時 生涯学習館 2階研修室2	報告事項 (1) 矢板っ子輝き大賞について (2) 矢板市内小学生進学先について (3) 矢板市生涯学習推進計画(5期計画)策定に係るパブリックコメントの結果について 議 事 (1) 区域外就学承諾願について (2) 学区外学校就学許可願について	委 員 5 課 長 1 班 長 1 課 長 補 佐 1 指 導 主 事 3 社 教 主 事 1
臨時会 3月3日(水) 午後4時45分 生涯学習館 2階教育長室	議 事 (1) 令和3年度教職員人事異動(案)について (2) 令和3年度矢板市教育委員会事務局職員人事異動(案)について	委 員 4 部長兼課長 1 課 長 補 佐 1
定例会 3月16日(火) 午後3時 生涯学習館 2階研修室2	報告事項 (1) 第366回矢板市議会定例会について (2) 学校医等の報告について (3) 成人式について(令和3年1月実施予定者対象) (4) 矢板武記念館シダレザクラライトアップの実施について (5) 地域運動部活動推進事業について 議 事 (1) 準教科書の使用承認について (2) 区域外就学承諾願について (3) 学区外学校就学許可願について	委 員 5 部長兼課長 1 課 長 1 班 長 1 課 長 補 佐 1 指 導 主 事 3

Ⅳ 施策の点検評価一覧

NO	基本政策		施策の展開			施策の方策		評 価	
								自己評価	委員評価
1	1	小中学校教育の充実	1	生きる力を育む教育の実践	①	キャリア教育の推進		B	B
2			2	信頼される開かれた学校づくり	①	地域人材の活用		B	B
3			3	特色ある教育の展開	①	小中一貫教育、小中連携の実践		B	B
4			4	教育相談体制の充実	①	いじめ、不登校等教育相談		B	B
5			5	教育環境の整備	①	情報教育の推進		A	B
6					②	学校図書館の充実		A	A
7					③	学校施設大規模改修事業		A	A
8	2	幼児養育の充実	1	幼保小の連携	①	幼保小連携の推進		A	A
9	3	まなびの広場の充実	1	多様な学習機会の提供	②	公民館市民講座開催事業		B	B
10	4	市民力の実践	1	地域での活動支援	①	地域学校協働本部事業		B	B
11	5	市民のつながりを強める	2	公民館活動の支援	①	地域づくり推進事業		B	B
12	6	推進体制の充実	1	生涯学習の支援	①	生涯学習情報の提供		B	B
13	7	文化財の調査・保護・活用	1	文化財の保護活用	①	矢板武記念館運営事業		C	C
14					②	郷土資料館運営事業		B	B
15	8	市民文化の創造	1	芸術文化の創造・振興	①	芸術文化振興事業		B	B
16					②	ともなり文芸祭り開催事業		B	B
17	9	スポーツ・レクリエーション活動の振興	1	スポーツ・レクリエーション活動の振興	①	スポーツ教室イベントの充実		A	A
18					②	スポーツ団体育成支援事業		A	A
19	10	青少年の健全育成	1	家庭教育の充実	①	家庭教育推進事業（生涯）		A	A
20					①	家庭教育推進事業（公民）		B	B
21			2	生きる力を育む体験活動の推進	①	青少年活動推進事業（生涯）		B	B

※ 評価ランク A/十分な成果である、B/概ね良好、C/改善等を検討、D/改善が必要

Ⅳ 施 策 評 価 シ ー ト

施策番号	1-1-①	施策名	キャリア教育の推進	主管課	教育総務課
事業費 (千円) (決算額)	平成30年度 413	令和元年度 434	令和2年度 0	前年度比 △434	
制度区分	☐ : 補助(国・県) ☒ : 市単独 ☐ : その他				
事業の目的	生徒達にとって居がい感や自己有用感及び、自ら学び考える力を育み、将来の目標について考える機会を与えることを目的として、市立中学2年生に職場体験学習(キャリアスタートウィーク)を、中学1年生に職場見学を実施する。				
施策の対象者	市内中学生				
今年度の目標	事業開始年度：平成24年度 市立中学2年生の職場体験学習(キャリアスタートウィーク)と、中学1年生の職場見学において、生徒の受け入れ先となる事業所を新規開拓し、その一覧表を作成し、事業所を紹介することで各中学校を支援する。				
施策内容 (実施状況 実施値等)	- 新型コロナウイルス感染症感染予防のため、実施期間の変更を依頼して2度受け入れ調査を行ったが、収束が見えなかったため全事業中止とした。 - 特別活動や総合的な学習の時間において、キャリア教育に関する取組(「職業人に聞こう」講演)を行った。				
課 題	- 市内の事業所数の減少により、受け入れ先の新規開拓が難しく、矢板中学校の2年生の人数分を確保するのが難しい。 - 生徒の希望する業種に偏りがあり、希望を叶えられないことがある。				

●自己評価

評価項目	点 数	基 準	コ メ ン ト	
手段の妥当性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	事業所における職場見学・体験のために、自分で調べたり友達と相談し合ったりする中で、職業への理解・関心が深まっている。	
手法の効率性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	事業を実施する手法はほぼ確立されており、受け入れ先である事業所等の協力・連携も上手く図られている。	
費用対効果	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	受け入れ先事業所の多大なるご協力により、職場見学や体験も無償で実施できており、教育的な効果も大きい。	
目標達成度	4	☐ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☒ やや低い(4) ☐ 低い(1)	新型コロナウイルス感染症予防のため、職場見学・職場体験時学習は中止となった。	
評価結果	25	A(31点以上) B(30~22点) C(21~13点) D(12点以下)	ランク	B
今後の方向性	☐ : 拡大 ☒ : 現状維持 ☐ : 一部修正 ☐ : 縮小 ☐ : 廃止			

●委員評価

評価項目	点 数	基 準		
手段の適正化	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
手法の効率性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
費用対効果	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
目標達成度	4	☐ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☒ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
評価結果	25	A(31点以上) B(30~22点) C(21~13点) D(12点以下)	ランク	B
委員の意見	キャリア教育はもちろんのこと、生徒指導上でも教育的効果が大きい活動である。商工会など関係機関と連携を図り、受け入れ先の事業所を開拓してほしい。			

※評価ランクは、A(十分な成果である)、B(概ね良好)、C(改善等を検討)、D(改善が必要)とする。

Ⅳ 施 策 評 価 シ ー ト

施策番号	1-2-①	施策名	地域人材の活用	主管課	教育総務課
事業費 (千円) (決算額)	平成30年度 303	令和元年度 248	令和2年度 190	前年度比 △58	
制度区分	☐ ：補助(国・県) ☒ ：市単独 ☐ ：その他				
事業の目的	家庭・地域から信頼される開かれた学校づくりを目標に、次世代を担う子どもたちのふるさとの心に対する愛着心を育み、その地域の特色ある伝統文化を重んじ、地域とのつながりや児童生徒の特性に合わせ、学校ごとに地域人材を活用し、教員とは異なる地域人材ならではの学習機会の充実を図る。				
施策の対象者	小・中学校の児童生徒及び地域住民				
今年度の目標	・信頼される学校づくりの一環として、地域ぐるみで子育てを支援する環境づくりを目指し、地域と学校のつながりを活かした講座、授業等を令和7年度までに各学校20回実施することを目標に掲げ、外部人材活用を積極的に実施していきたい。 ・地域人材については、幅広い分野の方に協力いただき、多種多様な授業・講座を実施したい。				
施策内容 (実施状況 実施値等)	開かれた学校づくりを目的として、主に学校周辺や地域の方々のボランティア等により、多種多様な授業・講座を実施した。 ○外部人材の協力により市内小中学校11校で、延べ170回授業・講座等を実施し、目標を達成した学校は4校。(令和2年度については、新型コロナウイルス感染症の拡大により、外部講師を招いての講座・授業の実施が困難な状況であった。) ○ふるさと探訪、伝統楽器の講習、高齢者交流会、農業体験、地域の自然観察、ふるさとの心に対する関心や知識を深め、愛着を感じる事業を実施することができた。 ・全校行事として実施した学校は、縦割り班で活動することにより異学年での交流が図れた。 ・児童生徒と住民が交流することにより、地域住民同士の絆が深まった。				
課 題	例年同様の事業を実施しているが、活動の拡充、人材の発掘等、新たな計画立案に苦慮している。各学校ごとに地域人材の活用を行っているが、いくつかの学校が共同で事業を実施できれば、費用対効果や、活用内容の拡充も図れる。				

●自己評価

評価項目	点 数	基 準	コ メ ン ト	
手段の妥当性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	地域住民同士の関係が希薄になりつつあるが、学校で率先して地域住民と交流することにより相互理解が図れた。	
手法の効率性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	各学校で多種多様な人材を活用しているので、地域と学校との様々な交流が図られている。	
費用対効果	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	外部人材の協力により、安価で効果的な講座や授業が実施できている。	
目標達成度	4	☐ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☒ やや低い(4) ☐ 低い(1)	各学校がそれぞれに取り組んでいるので、回数、内容等にバラつきはあるが、ふるさとの心に対する関心・愛着を感じる事業を実施できている。	
評価結果	25	A(31点以上) B(30~22点) C(21~13点) D(12点以下)	ランク	B
今後の方向性	☐ ：拡大 ☒ ：現状維持 ☐ ：一部修正 ☐ ：縮小 ☐ ：廃止			

●委員評価

評価項目	点 数	基 準		
手段の適正化	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
手法の効率性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
費用対効果	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
目標達成度	4	☐ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☒ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
評価結果	25	A(31点以上) B(30~22点) C(21~13点) D(12点以下)	ランク	B
委員の意見	活動する内容を教育課程に位置付けることで継続可能となり、教育効果は高まると考える。今後さらに、地域学校協働本部等と連携を深め、目標の達成を図ってほしい。			

※評価ランクは、A(十分な成果である)、B(概ね良好)、C(改善等を検討)、D(改善が必要)とする。

Ⅳ 施 策 評 価 シ ー ト

施策番号	1-3-①	施策名	小中一貫教育、 小中連携の実践	主管課	教育総務課
事業費 (千円) (決算額)	平成30年度 3,358	令和元年度 3,323	令和2年度 4,953	前年度比 1,630	
制度区分	☐ : 補助(国・県) ☒ : 市単独 ☐ : その他				
事業の目的	事業開始年度：平成21年度 ・小学校から中学校へ進学する際の円滑な接続を図るとともに、児童生徒一人ひとりの個性と能力を伸長し、生きる力を育成する。 ・泉小中一貫教育は平成21年度、片岡地区小中連携については平成24年度より実施されている。				
施策の対象者	小中一貫：泉中学校及び泉小学校 小中連携：片岡中学校及び片岡中学校区内の小中学校				
今年度の目標	・泉小中一貫教育においては、児童生徒や教職員が、学校行事や研修等を通して互いに交流し合うこととお互いのよさや個性を認め合い、きめ細かな指導と、個の能力を伸ばす指導を行う。 ・片岡地区の小中学校教職員の合同研修会において、教職員の相互交流を行い、義務教育9年間を通じた児童生徒の将来像を共有する。				
施策内容 (実施状況) (実施値等)	○小中一貫 ・少人数学習・習熟度別学習やチームティーチング等を取り入れ、きめ細かな指導にあたることができた。 ・小中合同運動会、小中教員合同研修会、児童生徒の交流等は、新型コロナウイルス感染症感染予防のため全事業中止。 ・週末学習教室(泉小5、6年生 泉中の希望者を対象とした学習教室は、実施日を別にして小中学校毎に開催(自習形式) 回数15回、参加人数16人) ○小中連携 ・「片岡スタンダード」の周知徹底を図り、共通した指導の確立。 合同研修会は、新型コロナウイルス感染症感染予防のため中止。 推進会議 1回開催 ・ノーマディア週間を中学校の定期テスト期間という共通の日に設け、「タイムマネジメントカード」を活用して、保護者の協力を得ながら進めることができた。				
課 題	・教職員の働き方改革が奨励されており、研修会や推進協議会のあり方を再検討する必要がある。 ・安沢小学校は、中学校区が矢板中と片岡中にまたがっているが、連携先は片岡中のみであるため、事業実施において配慮を必要とする。				

●自己評価

評価項目	点 数	基 準	コ メ ン ト	
手段の妥当性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	泉地区小中一貫では週末教室と定期テスト前学習教室のみの実施であったが、塾に通えない児童生徒等への学習の援助ができた。	
手法の効率性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	少人数学習・習熟度別学習やチームティーチング等を取り入れ、きめ細かな指導にあたることで基礎基本が身に付いた。	
費用対効果	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	宇都宮大学との連携と学力向上応援団事業を重ねることで、予算を効果的に執行しつつ、専門的な指導をさらに広く共有することができた。	
目標達成度	4	☐ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☒ やや低い(4) ☐ 低い(1)	新型コロナウイルス感染予防のため、小中合同事業は実施できなかったが、片岡地区では「タイムマネジメント週間」に力を入れ、自己調整力を意識した取り組みを行ったことにより、児童生徒の学力や生活力の向上が図られた。	
評価結果	25	A (31点以上) B (30~22点) C (21~13点) D (12点以下)	ランク	B
今後の方向性	☐ : 拡大 ☐ : 現状維持 ☒ : 一部修正 ☐ : 縮小 ☐ : 廃止			

●委員評価

評価項目	点 数	基 準		
手段の適正化	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
手法の効率性	10	☒ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
費用対効果	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
目標達成度	4	☐ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☒ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
評価結果	28	A (31点以上) B (30~22点) C (21~13点) D (12点以下)	ランク	B
委員の意見	コロナ禍や教員の働き方改革などで時間や場所等に制限が加わるので、今は各学校でこれまでの具体的実践を継続し、しっかり定着させることが大切である。			

※評価ランクは、A(十分な成果である)、B(概ね良好)、C(改善等を検討)、D(改善が必要)とする。

Ⅳ 施 策 評 価 シ ー ト

施策番号	1-4-①	施策名	いじめ、 不登校等教育相談	主管課	教育総務課
事業費 (千円) (決算額)	平成30年度 5,208	令和元年度 5,358	令和2年度 5,896	前年度比 538	
制度区分	☐ ：補助(国・県) ☒ ：市単独 ☐ ：その他				
事業の目的	事業開始年度：平成3年度 いじめに起因する重大事件や不登校の増加は全国の小中学校で大きな問題となっており、本市においても例外ではない。いじめ・不登校の対策として、不登校傾向の場合には適切な対処とともに教育相談を充実させ未然防止を図り、不登校の場合には教育相談や適応指導教室通級から原籍校への復帰を図る。				
施策の対象者	市内小中学生				
今年度の目標	・矢板市適応指導教室「チャレンジハウス」での教育相談を充実させる。 ・教育分野に関する知識に加えて、社会福祉等の専門的な知識や技能を有するスクールソーシャルワーカー(SSW)、教育相談員を教育総務課に配置することで、市内小中学校と連携し、いじめと不登校の早期発見・未然防止に努める。				
施策内容 (実施状況 実施値等)	○令和2年度矢板市適応指導教室「チャレンジハウス」 ・通室生 19名 小学校8名(2年1名 3年1名 4年2名 5年1名 6年3名) 中学校11名(1年5名 2年3名 3年3名) ○令和2年度矢板市SSW ・相談ケース数 小学生8名 中学生7名				
課 題	・不登校の原因が家庭問題に起因するケースが多い。矢板市子ども課や児童相談所との連携を図っていく必要がある。解決を焦らず、じっくりと時間をかけて解決を図ろうとする姿勢が必要である。 ・発達障害がある児童生徒が多いので、今後も臨床心理士、カウンセラー等にアドバイスを受け、指導に生かしたい。				

●自己評価

評価項目	点 数	基 準	コ メ ン ト	
手段の妥当性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	不登校児童生徒にとって、チャレンジハウスは学校とは違う環境のため、通室し学習する機会を確保でき、学校復帰へ向けて有効である。	
手法の効率性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	児童生徒一人ひとりの実態に合わせて活動内容を決めることができるため、その児童生徒にとって必要なことを学びやすい。	
費用対効果	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	不登校児童生徒の学習機会を確保し、支援の中核的な役割を果たしているチャレンジハウスは、広域での運営により費用を分担しているため、各市町の費用抑制を図れている。	
目標達成度	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	不登校や引きこもりに陥っていた児童生徒が、通室することで成長できている。中学校3年生は全員進学することができた。	
評価結果	28	A(31点以上) B(30~22点) C(21~13点) D(12点以下)	ランク	B
今後の方向性	☐ ：拡大 ☒ ：現状維持 ☐ ：一部修正 ☐ ：縮小 ☐ ：廃止			

●委員評価

評価項目	点 数	基 準		
手段の適正化	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
手法の効率性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
費用対効果	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
目標達成度	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
評価結果	28	A(31点以上) B(30~22点) C(21~13点) D(12点以下)	ランク	B
委員の意見	児童生徒の不登校要因は複雑であるが、一人一人の実態に合わせ支援を行い、効果が現れている。今後、他課や関係機関とのさらなる連携を願いたい。			

※評価ランクは、A(十分な成果である)、B(概ね良好)、C(改善等を検討)、D(改善が必要)とする。

Ⅳ 施策評価シート

施策番号	1-5-①	施策名	情報教育の推進	主管課	教育総務課
事業費 (千円) (決算額)	平成30年度 2,894	令和元年度 1,270	令和2年度 2,224	前年度比 954	
制度区分	☒ ：補助(国・県) ☒ ：市単独 ☐ ：その他				
事業の目的	事業開始年度：平成24年度 ICT機器及び視覚的なソフトを整備し、有効活用することにより、主体的・対話的で深い学びによる授業改善を目指す。				
施策の対象者	市内小中学生				
今年度の目標	・指導者用デジタル教科書を全小中学校に2教科分(国語、算数・数学)整備する。 ・経済産業省の補助金を活用し、タブレット端末で活用できるデジタルドリルを配備する。 ・試験用の大型電子黒板を配備し、大型電子黒板の活用について検証する。				
施策内容 (実施状況) (実施値等)	○大型電子黒板1台を片岡中学校へ配備し、活用について検証を図った。 ○指導者用デジタル教科書は以下のように整備した。 ・矢板小 国語6個(1～6年)算数2個(1・2年) ・東小 国語2個(1・2年)算数6個(1～6年) ・川崎小 算数2個(1～6年)国語2個(1・2年) ・豊田小 国語1個(1年)社会1個(5年)算数6個(1～6年) ・泉小 国語6個(1～6年)算数2個(1・2年) ・片岡小 国語2個(5・6年)算数6個(1～6年) ・乙畑小 国語2個(5・6年)算数6個(1～6年) ・安沢小 算数6個(1～6年)社会2個(5・6年) ・片岡中 英語(1～3年)国語(1～2年) ○指導者用デジタル教科書を使うことで、わかる授業につなげることができた。 ○経済産業省の補助金を活用し、東京書籍のタブレットドリル5教科分を全小中学生が使用した。				
課題	・予算に制限があり、学校の要望に応じた必要数を整備できない。 ・デジタル教科書、デジタル教材の設定作業が非常に困難である。教科書会社によって設定方法が異なることも要因として考えられる。学校で設定作業をするのは困難なため、教育総務課で全児童生徒分を設定した。				

●自己評価

評価項目	点数	基準	コメント	
手段の妥当性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	多くの教員は有効に活用しているが、今後実態を把握し、必要数を検討していきたい。	
手法の効率性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	デジタル教科書やドリルの有効活用により、効率的な授業展開ができるようになった。また、タブレット導入により、配布物の印刷省略化など、教員の負担軽減にも繋がった。	
費用対効果	10	☒ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	GIGAスクール構想による、全児童生徒等へのタブレット導入(Wi-Fi機器も含む)にあたり国庫補助金を活用し、事業費を抑制できたため、費用対効果は高い。	
目標達成度	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	各学校と協議し、計画通り整備できた。	
評価結果	31	A(31点以上) B(30～22点) C(21～13点) D(12点以下)	ランク	A
今後の方向性	☒ ：拡大 ☐ ：現状維持 ☐ ：一部修正 ☐ ：縮小 ☐ ：廃止			

●委員評価

評価項目	点数	基準		
手段の適正化	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
手法の効率性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
費用対効果	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
目標達成度	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
評価結果	28	A(31点以上) B(30～22点) C(21～13点) D(12点以下)	ランク	B
委員の意見	ICT教育は整備後の有効活用が大切であり、各教員の力量が問われる。オンライン研修の継続とともに、今後必要となる予算の確保のためにも、結果が求められるため、尽力いただきたい。			

※評価ランクは、A(十分な成果である)、B(概ね良好)、C(改善等を検討)、D(改善が必要)とする。

Ⅳ 施策評価シート

施策番号	1-5-②	施策名	学校図書館の充実	主管課	教育総務課		
事業費 (千円) (決算額)	平成30年度 10,324	令和元年度 10,431	令和2年度 28,744	前年度比 18,313			
制度区分	☒ : 補助(国・県) ☐ : 市単独 ☐ : その他						
事業の目的	事業開始年度: 学校が学校図書館の機能を十分に活用できるよう支援し、学校図書館の充実に向けた施策を推進することが重要であるため、児童生徒の興味・関心に応じて、自発的・主体的に読書や学習を行う場として、また読書を介して創造的な活動を行う場としての環境整備を行うことを目的とする。						
施策の対象者	市内小中学生						
今年度の目標	学校図書館の充実に向けて、「読書センター」「学習・情報センター」としての環境整備を進めるとともに、子どもたちの読書活動の推進を図る。 ・学校図書館の円滑な運営を図るため、会計年度任用職員を7名配置(小学校4人 中学校3人) ・蔵書の整備(各学校における図書購入) ・GiGAスクール構想による1人1台タブレット端末を活用した学校電子図書館(ともなりライブラリー)を開設年度内に電子書籍を約3,000冊整備する						
施策内容 (実施状況 実施値等)	<table border="0"> <tr> <td> ・図書購入実績 小学校1,284冊 中学校887冊 ・読書推進活動(読み聞かせ 月1回程度) ・学校と図書館連携のための研修会(年3~4回 各小中学校) ・学校電子図書館「ともなりライブラリー」の導入(R2.10) 〃 活用推進活動(ビブリオバトル開催 3回) </td> <td> ・図書室の環境整理(蔵書管理・貸出) ・蔵書の計画的な整備 ・図書事務スキルアップ研修(年2回) ・電子書籍購入実績 3,960冊 </td> </tr> </table>					・図書購入実績 小学校1,284冊 中学校887冊 ・読書推進活動(読み聞かせ 月1回程度) ・学校と図書館連携のための研修会(年3~4回 各小中学校) ・学校電子図書館「ともなりライブラリー」の導入(R2.10) 〃 活用推進活動(ビブリオバトル開催 3回)	・図書室の環境整理(蔵書管理・貸出) ・蔵書の計画的な整備 ・図書事務スキルアップ研修(年2回) ・電子書籍購入実績 3,960冊
・図書購入実績 小学校1,284冊 中学校887冊 ・読書推進活動(読み聞かせ 月1回程度) ・学校と図書館連携のための研修会(年3~4回 各小中学校) ・学校電子図書館「ともなりライブラリー」の導入(R2.10) 〃 活用推進活動(ビブリオバトル開催 3回)	・図書室の環境整理(蔵書管理・貸出) ・蔵書の計画的な整備 ・図書事務スキルアップ研修(年2回) ・電子書籍購入実績 3,960冊						
課題	・現在、図書事務員を会計年度任用職員により対応しているが、各校1名の配置ができていない。今後は、各校に図書事務員を常駐するよう予算要求をするとともに、業務委託等の検討も進めていく。 ・学校電子図書館「ともなりライブラリー」は読書センターとしての役割だけでなく、授業等において積極的な活用を図るため、学習指導要領に沿った電子資料の整備等を行うとともに、教員に向けた周知や研修が必要である。						

●自己評価

評価項目	点数	基 準	コ メ ン ト	
手段の妥当性	10	☒ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	読み聞かせや家読(うちどく)等の推進に加え、学校電子図書館の開設により、子どもたちの読書への関心が高まった。	
手法の効率性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	基幹校では電子管理システムを導入する等効率的な図書館運営に努めている。学校電子図書館の開設により、家庭においても利用可能となったため、読書環境の向上に繋がった。	
費用対効果	10	☒ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	学校電子図書館の導入(電子書籍購入も含む)にあたりコロナ交付金を活用し、事業費を抑制できたため、費用対効果は高い。	
目標達成度	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	蔵書については、要望どおり整備できているが、人材の整備には更なる検討が必要である。学校電子図書館(ともなりライブラリー)の導入については、計画どおり実施できた。	
評価結果	34	A(31点以上) B(30~22点) C(21~13点) D(12点以下)	ランク	A
今後の方向性	☒ : 拡大 ☐ : 現状維持 ☐ : 一部修正 ☐ : 縮小 ☐ : 廃止			

●委員評価

評価項目	点数	基 準		
手段の適正化	10	☒ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
手法の効率性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
費用対効果	10	☒ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
目標達成度	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
評価結果	34	A(31点以上) B(30~22点) C(21~13点) D(12点以下)	ランク	A
委員の意見	学校図書館の整備については、順調に行われている。学校電子図書館の導入には、国庫補助を活用したとはいえ、大きい事業費であるので、有効活用が求められる。引き続き、学校への働きかけをお願いしたい。			

※評価ランクは、A(十分な成果である)、B(概ね良好)、C(改善等を検討)、D(改善が必要)とする。

Ⅳ 施 策 評 価 シ ー ト

施 策 番 号	1-5-③	施策名	学校施設 大規模改修事業	主管課	教育総務課
事 業 費 (千円) (決算額)	平成30年度	令和元年度		令和2年度	前年度比
	22,474	569,135		50,842	△ 518,293
制 度 区 分	■：補 助（国）				

●自己評価

評価項目	点 数	基 準	コ メ ン ト	
手段の妥当性	10	☒ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	今後国庫補助事業の採択要件として、学校施設長寿命化計画の策定は必須である。また、老朽化する施設の現状を把握し、今後の改修計画を検討するためにも必要なものであるため、手段の妥当性は高い。	
手法の効率性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	今後は長寿命化計画に基づき、国庫補助等を活用しながら、計画的かつ効率的に大規模改修工事等を行っていく。	
費用対効果	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	適正規模・適正配置計画に基づき、現時点で必要と思われる施設のみを対象としたため、事業費を抑制できた。	
目標達成度	10	☒ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	事業計画時点のとおり、長寿命化計画策定を完了することができた。	
評価結果	34	A(31点以上) B(30～22点) C(21～13点) D(12点以下)	ランク	A
今後の方向性	☒ ：拡大 ☐ ：現状維持 ☐ ：一部修正 ☐ ：縮小 ☐ ：廃止			

●委員評価

評価項目	点 数	基 準		
手段の適正化	10	☒ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
手法の効率性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
費用対効果	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
目標達成度	10	☒ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
評価結果	34	A(31点以上) B(30～22点) C(21～13点) D(12点以下)	ランク	A
委員の意見	児童生徒の安全確保や学習環境の整備への努力に感謝したい。今後、財源を確保しつつ、策定した学校施設長寿命化計画に沿った改修整備を期待する。			

※評価ランクは、A(十分な成果である)、B(概ね良好)、C(改善等を検討)、D(改善が必要)とする。

Ⅳ 施策評価シート

施策番号	2-1-①	施策名	幼保小連携の推進	主管課	教育総務課
事業費 (千円) (決算額)	平成30年度 0	令和元年度 0	令和2年度 0	前年度比 0	
制度区分	☐ : 補助(国・県) ☒ : 市単独 ☐ : その他				
事業の目的	小1プロブレム解消のため、就学前の幼稚園及び保育園(保育所)での教育から小学校教育へなめらかに確実な接続を行うとともに、児童ひとりひとりへのきめ細かな指導が図れるよう幼稚園、保育園(保育所)と小学校間での連携を強化する。(R3・4年度「とちぎの幼小カリキュラム接続プロジェクト」事業の実施)				
施策の対象者	幼稚園教諭、保育園(保育所)保育士、小学校1年生担任、特別支援学級担任、特別支援コーディネーター				
今年度の目標	・園児一人ひとりの抱える課題を解決するため、指導主事が子ども課と協力して幼稚園、保育園(所)を訪問し細かな情報を得た上で適切な教育支援を行い、卒園後は小学校へ情報提供を行ってもらう。 ・園児が抱える課題を解決するため、市内の特別支援学級担任に幼稚園、保育園(所)での様子を参観してもらい、一緒に関わり方をアドバイスする。 ・小1プロブレムの解消が図れるよう、児童や保護者の困り感ばかりでなく、担任の困り感にも寄り添い、指導方法についても共に考える。 ・共通の支援シートで、幼稚園、保育園(保育所)が同じ観点で小学校に伝達できるようにする。 ・幼小の先生方が一緒に研修する機会を設ける。				
施策内容 (実施状況) (実施値等)	・全ての幼保を訪問することで、支援が必要な児童の保護者への支援を円滑に行うことができた。 ・市内全ての幼稚園、保育園(保育所)、小学校の関係者が一堂に会し、情報交換会を行った。 ・教諭や保育士が互いに交流、情報交換することで、子どもたちの様子を同じ視点で把握することができ、さらには将来を見通した指導方針を立てることができた。				
課題	細やかな配慮事項の伝達が必要な児童が多い小学校は、伝達に時間がかかったり、幼稚園や保育園(保育所)の担当者を待たせてしまったりしてしまった。				

●自己評価

評価項目	点数	基準	コメント	
手段の妥当性	10	☒ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	関係者の情報の共有が図られ、小1プロブレムの解消に繋がる取組みとなり、入学後の問題も減った。送り出す側の心配も減少した。	
手法の効率性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	伝達する順番や方法を工夫し、幼保小が一堂に会することで、効率的に情報交換会を行うことができた。特別支援教育コーディネーターの参加で、特別な支援が必要な児童についての対応を、早めに学校全体で考えることができた。	
費用対効果	10	☒ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	費用を要せずに、学校、幼稚園・保育園等の施設を訪問し、保育士、教員に対して具体的な指導方針やうまくいっている対応について共通理解することができた。	
目標達成度	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	児童一人ひとりを考えた情報交換会であるため、個に応じた指導方法や家庭環境など小学校でほしい情報が得られ、クラス分けに生かされ、その後の小学校生活の円滑なスタートにつながった。	
評価結果	34	A (31点以上) B (30~22点) C (21~13点) D (12点以下)	ランク	A
今後の方向性	☒ : 拡大 ☐ : 現状維持 ☐ : 一部修正 ☐ : 縮小 ☐ : 廃止			

●委員評価

評価項目	点数	基準		
手段の適正化	10	☒ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
手法の効率性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
費用対効果	10	☒ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
目標達成度	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
評価結果	34	A (31点以上) B (30~22点) C (21~13点) D (12点以下)	ランク	A
委員の意見	小学校では、新1年生を迎えるにあたって、詳細な情報提供により早期の対策がとれている。特に指導主事の方々の働きに感謝したい。幼保と小のパイプ役としての機能を十分に果たしている。			

※評価ランクは、A(十分な成果である)、B(概ね良好)、C(改善等を検討)、D(改善が必要)とする。

Ⅳ 施 策 評 価 シ ー ト

施策番号	3-1-②	施策名	公民館市民講座 開催事業	主管課	公民館
事業費 (千円) (決算額)	平成30年度	令和元年度		令和2年度	前年度比
	1,393	1,135		652	△ 483
制度区分	☐ ：補助(国・県) ☒ ：市単独 ☐ ：その他				
事業の目的	市民誰もが生涯にわたり豊かさを実感できるよう、生きがいづくりや社会課題、地域課題、生活課題などのテーマに沿った市民講座を開設する。				
施策の対象者	市民				
今年度の目標	・主催講座から自主講座へと移行できるよう支援する。 ・コロナウイルス感染症の感染状況を注視しつつ、感染防止に努めながら事業を実施していく。				
施策内容 (実施状況 実施値等)	市民講座 ●矢板公民館／若葉学級(高齢者)3回、大人の遠足シリーズ2回、世界のお菓子作り教室(中止)、クリスマスケーキ作り教室(中止)、川柳入門教室11回、科学は科楽(中止)、自遊時在(中止) ●泉公民館／高齢者学級4回、いずみ元気塾4回、ジュニアテニス9回、ラフターヨガ(中止)、リフレッシュ体操(中止)、釜のふたまんじゅ作り(中止)、わくわくクラブ(中止)、おさんぽクラブやいた1回、ものづくり講座(中止)、子どもちぎり絵教室2回 ●片岡公民館／いきいき(高齢者)学級4回、下野おくのほそみちをたどる(中止)、和い輪い学級3回、手作り味噌教室(中止)、パン作り教室(中止)、みんなでヨガタイム6回 ●農村環境改善センター／華道19回、お針の会9回、気功・太極拳16回、書道教室16回				
課 題	継続講座の受講生が固定化され、新規受講者が少ない。講師・受講者ともに高齢化し、継続できず閉講する講座がでてきている。若い女性や男性参加者が少ない。				

●自己評価

評価項目	点 数	基 準	コ メ ン ト	
手段の妥当性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	主催講座から自主講座へ移行するなど継続的な展開となっている。継続的な自主講座として、開設ができています。	
手法の効率性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	継続講座の受講生が固定化され、新規受講者が少ないが、特に高齢者が参加する講座は、認知症予防につながっている。	
費用対効果	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	自主的な活動により、費用が低くおさえられている。	
目標達成度	4	☐ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☒ やや低い(4) ☐ 低い(1)	コロナウイルス感染症予防により、中止した講座が多かった。	
評価結果	25	A(31点以上) B(30～22点) C(21～13点) D(12点以下)	ランク	B
今後の方向性	☐ ：拡大 ☒ ：現状維持 ☐ ：一部修正 ☐ ：縮小 ☐ ：廃止			

●委員評価

評価項目	点 数	基 準		
手段の適正化	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
手法の効率性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
費用対効果	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
目標達成度	4	☐ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☒ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
評価結果	25	A(31点以上) B(30～22点) C(21～13点) D(12点以下)	ランク	B
委員の意見	アフターコロナを見据え、講座内容の見直しと受講者の確保及び講師の世代交代(バトンタッチ)のシステムについて、情報収集や研究をお願いしたい。			

※評価ランクは、A(十分な成果である)、B(概ね良好)、C(改善等を検討)、D(改善が必要)とする。

Ⅳ 施 策 評 価 シ ー ト

施策番号	4-1-①	施策名	地域学校 協働本部事業	主管課	生涯学習課
事業費 (千円) (決算額)	平成30年度 4,772	令和元年度 3,992	令和2年度 6,294	前年度比 2,302	
制度区分	☐ : 補助(国・県) ☒ : 市単独 ☐ : その他				
事業の目的	地域住民が学校と連携・協働する仕組みを促進し、子どもたちを支えるだけでなく、地域住民の生涯学習・自己実現に資するとともに、活動を通じて地域のつながりを強化し、地域の活性化を図る。				
施策の対象者	市内小中学校及び放課後子ども教室(豊田小・乙畑小)				
今年度の目標	学校のニーズを把握し、ボランティアの養成に努める。				
施策内容 (実施状況 実施値等)	生涯学習課に統括的な地域学校協働活動推進員(統括コーディネーター)を置き、校長会や各学校の地域連携教員、行政区代表、社会教育指導員、各団体の代表等で組織する「矢板市地域学校協働本部」の設立を検討した。また、学校支援ボランティアの派遣事業や出前講座、放課後子ども教室推進事業を実施した。 ・人材バンクの登録/216人 ・出前講座(学校) 15回開催、のべ670人参加 ・学校支援(プログラミング教育支援、ミシンボランティア、読み聞かせ、託児等) 69回実施、のべ4,393人利用 ・放課後子ども教室開設/平日開催: 豊田っ子ふれあいスクール、平日・長期休業日開催: 乙畑ひまわりスクール ・新型コロナウイルス感染拡大による臨時休校により学校支援等の実績は減少したが、臨時休校時における放課後子どもスクールの役割は大きかった。				
課 題	地域における教育力の低下、家庭の孤立化などの課題や、学校を取り巻く問題の複雑化・困難化に対して、社会総掛かりで対応するため、学校と地域がパートナーとして連携・協働するための組織的・継続的な仕組みづくり(地域学校協働本部の設置)が必要である。				

●自己評価

課 題	点 数	基 準	コ メ ン ト	
手段の妥当性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	効果的な支援活動を紹介したり新たな支援内容を提案したりするなどして、学校からの要請も増えてきている。	
手法の効率性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	学校との連絡調整を円滑にするため、地域学校協働活動推進員を配置しているの で、効果が表れてきている。	
費用対効果	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	地域学校協働活動推進員を会計年度任用職員とすることでコストは上昇したが、学校及び地域との連携が充実してきた。	
目標達成度	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	コロナ禍ではあったが、学校のニーズと感染拡大防止とのバランスを考えながら、授業や学校行事を支援することができた。	
評価結果	28	A(31点以上) B(30~22点) C(21~13点) D(12点以下)	ランク	B
今後の方向性	☒ : 拡大 ☐ : 現状維持 ☐ : 一部修正 ☐ : 縮小 ☐ : 廃止			

●委員評価

評価項目	点 数	基 準		
手段の適正化	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
手法の効率性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
費用対効果	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
目標達成度	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
評価結果	28	A(31点以上) B(30~22点) C(21~13点) D(12点以下)	ランク	B
委員の意見	地域学校協働活動推進員を配置し、学校支援のシステムが整いつつあり、支援内容も充実している。さらなる充実・発展を期待したい。			

※評価ランクは、A(十分な成果である)、B(概ね良好)、C(改善等を検討)、D(改善が必要)とする。

Ⅳ 施 策 評 価 シ ー ト

施策番号	5-2-①	施策名	地域づくり推進事業	主管課	公民館
事業費 (千円) (決算額)	平成30年度 9,547	令和元年度 3,199	令和2年度 3,133	前年度比 △ 66	
制度区分	☐ ：補助(国・県) ☒ ：市単独 ☐ ：その他				
事業の目的	事業開始年度：昭和42年度 地域づくりの先進地事例研究、視察や地区ごとの交歓会などを通じ、地域づくりリーダーの研修や情報交換を行い、地域のリーダーとしての資質を高め連携を深めるとともに、自治公民館整備など地域づくりの拠点整備を支援する。				
施策の対象者	矢板、泉、片岡地区区長会・自治公民館長・地域のリーダー等				
今年度の目標	・区長、自治公民館長、地域のリーダー研修会や交歓会を通じ、地域づくりリーダーの育成を図る。 ・コロナウイルス感染症の感染状況を注視しつつ、感染防止に努めながら事業を実施していく。				
施策内容 (実施状況 実施値等)	・地区区長会視察研修 中止 ・自治公民館長視察研修 中止 ・自治公民館交歓会の開催 中止 ・自治公民館地域づくり活動費助成 57館@50,000円 ・自治公民館整備費助成 改築1館(田野原)191,796円 ・片岡地区コミュニティ推進協議会支援				
課 題	区長や自治公民館長以外の地域のリーダー予備軍の参加者が少なく、地域づくりリーダーの育成支援の効果がでない。(高齢化による人材不足、地域のつながりの希薄化、世代間の地域に対する考え方の乖離等)				

●自己評価

評価項目	点 数	基 準	コ メ ン ト	
手段の妥当性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	各研修会や各自治公民館との交流により情報交換をする交歓会などの実施は妥当である。	
手法の効率性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	公民館研修については、館長とリーダー合同で開催することにより、研修成果をリーダーに引き継げる。	
費用対効果	4	☐ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☒ やや低い(4) ☐ 低い(1)	区長や公民館長以外のリーダー予備軍の参加が少なく、効果があり出していない。	
目標達成度	4	☐ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☒ やや低い(4) ☐ 低い(1)	コロナウイルス感染症予防により、中止した事業が多かった。	
評価結果	22	A(31点以上) B(30~22点) C(21~13点) D(12点以下)	ランク	B
今後の方向性	☐ ：拡大 ☐ ：現状維持 ☒ ：一部修正 ☐ ：縮小 ☐ ：廃止			

●委員評価

評価項目	点 数	基 準		
手段の適正化	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
手法の効率性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
費用対効果	4	☐ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☒ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
目標達成度	4	☐ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☒ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
評価結果	22	A(31点以上) B(30~22点) C(21~13点) D(12点以下)	ランク	B
委員の意見	地域づくりに核となるリーダーの存在は欠かせない。地域リーダーの予備軍として、区長手前の人材等の育成について工夫をお願いしたい。			

※評価ランクは、A(十分な成果である)、B(概ね良好)、C(改善等を検討)、D(改善が必要)とする。

Ⅳ 施 策 評 価 シ ー ト

施策番号	6-1-①	施策名	生涯学習情報の提供	主管課	生涯学習課
事業費 (千円) (決算額)	平成30年度 417	令和元年度 374	令和2年度 651	前年度比 277	
制度区分	☐ : 補助(国・県) ☒ : 市単独 ☐ : その他				
事業の目的	市民講座などの学習機会やボランティアなど地域貢献活動の活動機会などの情報を発信し、市民の生涯学習活動の充実を図るとともに市民参画型生涯学習のまちづくりを推進する。				
施策の対象者	市民				
今年度の目標	市民の生涯学習活動の充実を図るとともに市民参画型生涯学習のまちづくりを推進する。				
施策内容 (実施状況 実施値等)	・生涯学習情報誌「まなび」の発行(11,500部、全戸配布) ・広報紙及びホームページ、やいこみゅ(LINE)、ツイッターの活用、案内チラシの配布(広報紙と同時、学校配布) ・公民館・生涯学習館展示コーナー、図書館ギャラリー貸出				
課 題	情報を活用し生涯学習に取り組む人と、そうでない人の差が大きい。 興味を引く、目に留まるような情報発信の工夫。 「まなび」の見直し(読みやすさの工夫)。				

●自己評価

評価項目	点 数	基 準	コ メ ン ト	
手段の妥当性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	コストを抑えた中、今ある媒体をできる限り活用している。	
手法の効率性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	広報紙と一緒に案内チラシを配布、そのほか子どもを対象とした事業等は、学校へ直接チラシを配布するなどしているほか、HPにも掲載している。	
費用対効果	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	「まなび」を1部約31.9円で作成しており、費用対効果は高めと考える。	
目標達成度	4	☐ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☒ やや低い(4) ☐ 低い(1)	出前講座の要請は増加傾向にあったが新型コロナにより今年度の実績は減少となった。市民が生涯学習に取り組む意識に温度差がある。HPにも掲載し利便性を向上させるほか、興味を引くよう案内チラシ作成など工夫したい。	
評価結果	25	A(31点以上) B(30~22点) C(21~13点) D(12点以下)	ランク	B
今後の方向性	☐ : 拡大 ☒ : 現状維持 ☐ : 一部修正 ☐ : 縮小 ☐ : 廃止			

●委員評価

評価項目	点 数	基 準		
手段の適正化	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
手法の効率性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
費用対効果	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
目標達成度	4	☐ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☒ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
評価結果	25	A(31点以上) B(30~22点) C(21~13点) D(12点以下)	ランク	B
委員の意見	生涯学習情報については、様々な手段を使って提供されており、配布物も工夫されている。今後、体験者の声や学習成果を盛り込んだ情報提供ができると有効ではないか。			

※評価ランクは、A(十分な成果である)、B(概ね良好)、C(改善等を検討)、D(改善が必要)とする。

Ⅳ 施 策 評 価 シ ー ト

施策番号	7-1-①	施策名	矢板武記念館 運営事業	主管課	生涯学習課
事業費 (千円) (決算額)	平成30年度 3,647	令和元年度 3,899	令和2年度 4,122	前年度比 223	
制度区分	□：補助(国・県) ■：市単独 □：その他				
事業の目的	事業開始年度：平成9年度 郷土の偉人「矢板武」の功績を後世に伝え郷土への関心を高めるため、記念館を管理運営し公開する。				
施策の対象者	一般				
今年度の目標	・記念館の維持・管理 ・イベント(シダレザクラライトアップ、体験事業等)開催 ・日本遺産構成文化財のPR				
施策内容 (実施状況 実施値等)	○日本遺産普及啓発事業の実施 ・構成文化財を巡る日本遺産ツアーについては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。 ○イベント開催 ・シダレザクラライトアップの実施。昨年度に引き続きライトアップ期間中の入館料を無料とした。 ただし、朗読会や演奏会については中止。 ・郷土資料館と同時開催の正月イベントについては、武記念館での開催は中止(郷土資料館の屋外遊びのみ実施)。 ○蔵の活用 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、蔵の活用は中止。 ※入館者数 R02 2,109人 R01 4,165人 H30 3,412人				
課 題	老朽化による維持管理経費の増大。				

●自己評価

評価項目	点 数	基 準	コ メ ン ト	
手段の妥当性	4	☐ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☒ やや低い(4) ☐ 低い(1)	H26から改修した蔵を活用し、さまざまなイベントを開催するなどして活用を図ってきたが、今年度はコロナ禍により一度も活用が出来なかった。	
手法の効率性	4	☐ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☒ やや低い(4) ☐ 低い(1)	市の観光施設としての役割も担っているが専用駐車場がなく、アクセスに難がある。	
費用対効果	4	☐ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☒ やや低い(4) ☐ 低い(1)	ライトアップなどのイベントは観覧者がSNSやネット上で記事を投稿するため市のPRに役立っている。	
目標達成度	4	☐ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☒ やや低い(4) ☐ 低い(1)	日本遺産普及啓発事業によるイベントの開催などが中止となり、記念館のPRをすることができなかった。	
評価結果	16	A(31点以上) B(30~22点) C(21~13点) D(12点以下)	ランク	C
今後の方向性	☐ ：拡大 ☒ ：現状維持 ☐ ：一部修正 ☐ ：縮小 ☐ ：廃止			

●委員評価

評価項目	点 数	基 準		
手段の適正化	4	☐ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☒ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
手法の効率性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
費用対効果	4	☐ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☒ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
目標達成度	4	☐ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☒ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
評価結果	19	A(31点以上) B(30~22点) C(21~13点) D(12点以下)	ランク	C
委員の意見	建物等の老朽化により、管理運営が難しいと思われるが、本施設は矢板市の観光資源の一つであることから、日本遺産構成文化財のPRを加えて認知度向上を図り、本市のイメージアップに繋げてほしい。			

※評価ランクは、A(十分な成果である)、B(概ね良好)、C(改善等を検討)、D(改善が必要)とする。

Ⅳ 施策評価シート

施策番号	7-1-②	施策名	郷土資料館 運営事業	主管課	生涯学習課
事業費 (千円) (決算額)	平成30年度 6,543	令和元年度 9,929	令和2年度 10,155	前年度比 226	
制度区分	☐ ：補助(国・県) ☒ ：市単独 ☐ ：その他				
事業の目的	事業開始年度：平成24年度 ・郷土資料を展示し、郷土の歴史を学ぶことができる施設として公開する。 ・企画展、市民作品展、体験教室等を開催し、住民参画型の資料館運営を図る。				
施策の対象者	一般				
今年度の目標	・資料館の維持・管理 ・企画展、市民作品展の開催 ・体験型事業の開催 ・デジタルミュージアムの構築				
施策内容 (実施状況 実施値等)	○企画展 ・「振り返ろう！矢板の学校ヒストリー」、「みてみよう！矢板市内文化財一斉公開」はいずれも新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。 ○市民作品展については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施せず。 ○体験事業、イベント等 ・常時体験メニューは新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止。 ・正月イベントを実施(屋外の遊びのみ)。参加者 延べ18人 ※入館者数 R02 673人 R01 2,991人 H30 3,016人 ○デジタルミュージアムの構築 ・ウェブサイトの制作、構築及び資料館収蔵資料等のデジタルデータ化。				
課題	・老朽化による維持管理経費の増大 ・デジタルミュージアムのコンテンツの充実等。				

●自己評価

評価項目	点数	基 準	コ メ ン ト	
手段の妥当性	4	☐ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☒ やや低い(4) ☐ 低い(1)	資料館の展示や郷土の歴史を学べる場を設けている。また体験学習や市民作品展の場として有効活用しているが、今年度はコロナ禍によりほとんどが実施できなかった。	
手法の効率性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	コロナ禍により来館者数が減る中、郷土資料館の収蔵品や文化財をいつでもどこからでも見ることができる仕組み(デジタルミュージアム)を構築した。	
費用対効果	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	交付金を活用した収蔵品・文化財等のデジタル化により、通常展示では公開することの難しい文化財等がWeb上で閲覧可能となった。また、貴重な文化財を展示により痛めることなく保管することができるようになった。	
目標達成度	4	☐ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☒ やや低い(4) ☐ 低い(1)	デジタルミュージアムの構築と資料館収蔵品・文化財のデジタル化を実施することはできたが、コロナ禍により企画展や体験学習が中止となったため来館者数は大きく減少した。	
評価結果	22	A(31点以上) B(30~22点) C(21~13点) D(12点以下)	ランク	B
今後の方向性	☐ ：拡大 ☐ ：現状維持 ☒ ：一部修正 ☐ ：縮小 ☐ ：廃止			

●委員評価

評価項目	点数	基 準		
手段の適正化	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
手法の効率性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
費用対効果	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
目標達成度	4	☐ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☒ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
評価結果	25	A(31点以上) B(30~22点) C(21~13点) D(12点以下)	ランク	B
委員の意見	デジタルミュージアム導入により、Web上で貴重な文化財等の資料を閲覧できるようになったことは、非常に素晴らしい。今後は、コンテンツの充実を図るとともに、子どもたちの学習にも大いに活用していただきたい。			

※評価ランクは、A(十分な成果である)、B(概ね良好)、C(改善等を検討)、D(改善が必要)とする。

Ⅳ 施 策 評 価 シ ー ト

施策番号	8-1-①	施策名	芸術文化振興事業	主管課	生涯学習課
事業費 (千円) (決算額)	平成30年度 820	令和元年度 835	令和2年度 555	前年度比 △ 280	
制度区分	☐ ：補助(国・県) ☒ ：市単独 ☐ ：その他				
事業の目的	事業開始年度： ・文化、芸術に関する団体などに補助・交付金を交付し活動を支援することにより、芸術文化の振興を図る。 ・矢板市文化祭など文化・芸能活動の成果発表の機会を提供することにより、芸術文化活動の振興を図る。 ・市民の文芸作品を広報やいたに掲載し、文芸人口の拡大を図る。				
施策の対象者	一般、団体				
今年度の目標	・文化祭の開催 ・芸術文化団体補助金の交付				
施策内容 (実施状況 実施値等)	○文化祭開催 ・11月1日～3日 作品展示：297点(前年度397点) ※コロナ禍での開催のため、出品作品数を制限し新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じて実施。 ○芸術文化団体補助金 ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各種大会等が開催中止となったため交付実績なし。 ※令和元年度実績 ・4件 90千円 矢板ウィンドオーケストラ、県立矢板高等学校(栄養食物科、農業経営課、機械科)				
課 題	・文化祭出品数や出演者数が減少しているため、募集内容や方法について工夫する必要がある。 ・オンラインなどにより、若い世代にもアプローチし、幅広い年代から参加してもらえるようなしくみの構築に取り組んでいく必要がある。				

●自己評価

評価項目	点 数	基 準	コ メ ン ト	
手段の妥当性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	文化祭においては、市民の文化・芸術活動の成果発表の機会を提供し、芸術文化活動の推進を図った。文化祭運営については、文化協会が市から受託し自ら運営している。	
手法の効率性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	文化祭は文化協会に実施委託。	
費用対効果	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	総事業費のうち50万円は文化祭開催委託金。	
目標達成度	4	☐ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☒ やや低い(4) ☐ 低い(1)	文化祭開催日については、他事業の祭り・イベントがコロナ禍で中止となったため、例年と比べ客足は減少したが、十分なコロナ対策を講じ、開催することができた。	
評価結果	25	A(31点以上) B(30～22点) C(21～13点) D(12点以下)	ランク	B
今後の方向性	☐ ：拡大 ☒ ：現状維持 ☐ ：一部修正 ☐ ：縮小 ☐ ：廃止			

●委員評価

評価項目	点 数	基 準		
手段の適正化	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
手法の効率性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
費用対効果	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
目標達成度	4	☐ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☒ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
評価結果	25	A(31点以上) B(30～22点) C(21～13点) D(12点以下)	ランク	B
委員の意見	生涯学習の成果発表の場であるので、感染症防止対策を図りながら、継続した文化祭の開催を望む。若い世代へのアプローチについて、工夫を期待したい。			

※評価ランクは、A(十分な成果である)、B(概ね良好)、C(改善等を検討)、D(改善が必要)とする。

Ⅳ 施 策 評 価 シ ー ト

施 策 番 号	8-1-②	施策名	ともなり文芸祭り 開催事業	主管課	生涯学習課
事 業 費 (千円) (決算額)	平成30年度	令和元年度		令和2年度	前年度比
	1,200	1,000		1,000	0
制 度 区 分	□：補 助（国・県）				

●自己評価

評価項目	点 数	基 準	コ メ ン ト	
手段の妥当性	7	□高い(10) ■やや高い(7) □やや低い(4) □低い(1)	短歌一般の部については、全国展開し、矢板市のPRに努めている。また、短歌以外にも俳句や川柳などの文芸作品を募集し、市民が参加しやすい大会としている。	
手法の効率性	7	□高い(10) ■やや高い(7) □やや低い(4) □低い(1)	多数の児童生徒が参加する市内の小中学校については、応募用紙の配布や取りまとめについて工夫している。また、リピーターへの応募用紙の配布なども行っている。	
費用対効果	7	□高い(10) ■やや高い(7) □やや低い(4) □低い(1)	「矢板市」の認知度アップに貢献していると思われる。入賞者には副賞として矢板市の特産品などを配布している。	
目標達成度	4	□高い(10) □やや高い(7) ■やや低い(4) □低い(1)	コロナ禍での実施となり、小中学生の応募数が大きく減少したため、前回ほどの応募総数には届かなかった。	
評価結果	25	A (31点以上) B (30～22点) C (21～13点) D (12点以下)	ランク	B
今後の方向性	□：拡大 ■：現状維持 □：一部修正 □：縮小 □：廃止			

●委員評価

評価項目	点 数	基 準		
手段の適正化	7	□高い(10) ■やや高い(7) □やや低い(4) □低い(1)		
手法の効率性	7	□高い(10) ■やや高い(7) □やや低い(4) □低い(1)		
費用対効果	7	□高い(10) ■やや高い(7) □やや低い(4) □低い(1)		
目標達成度	4	□高い(10) □やや高い(7) ■やや低い(4) □低い(1)		
評価結果	25	A (31点以上) B (30～22点) C (21～13点) D (12点以下)	ランク	B
委員の意見	応募方法について、学校の負担軽減のための応募箱設置や、オンラインでの試行を検討するなど工夫の様子が見られる。コロナ禍において、一時的に応募数が減ったとしても、今後回復が見込めるため、引き続き市民文化のレベルアップと本市のPRに努めていただきたい。			

※評価ランクは、A（十分な成果である）、B（概ね良好）、C（改善等を検討）、D（改善が必要）とする。

Ⅳ 施 策 評 価 シ ー ト

施策番号	9-1-①	施策名	スポーツ教室 イベントの充実	主管課	生涯学習課
事業費 (千円) (決算額)	平成30年度	令和元年度		令和2年度	前年度比
	1,056	1,041		1,076	35
制度区分	☐ : 補助(国・県) ☒ : 市単独 ☐ : その他				
事業の目的	スポーツ教室やスポーツイベント等の充実を図り、市民一人ひとりがスポーツ・レクリエーションに親しむための場及び選択肢を確保することによってそれぞれの生涯スポーツ・レクリエーションを推進を図り、もって健康の増進、体力の向上、明るく豊かで生きがいのある生活を営むことができる環境を確保する。				
施策の対象者	市民				
今年度の目標	・「スポーツ教室」、「健康ひろば」等を実施し、子どもから高齢者まで幅広くスポーツ・レクリエーションへ参画できる場及び選択肢を提供する。 ・関係団体の協力を得て各種スポーツイベントを実施し、スポーツ・レクリエーションに親しむきっかけづくりを行う。				
施策内容 (実施状況 実施値等)	【スポーツ教室】スポーツ協会加盟団体への委託事業。長期教室19(登録558人)、短期教室1(参加14人)。 【健康ひろば】スポーツ推進委員主催事業。新型コロナウイルス感染症の影響により10月、11月のみ実施(全8回開催、参加105人)。 【スポーツイベント】国体実行委員会によるオリエンテーリング体験会(参加64人)、ガールズサッカー体験会(参加41人)開催。矢板市レクリエーション協会によるウォークラリー(参加58人)開催。				
課 題	・各競技への既存参加者の定着に効果が見られる一方で、初心者や未経験者への裾野拡大に課題がある。 ・ジュニア世代の早期の段階での生涯スポーツ・レクリエーションへの参画を一層推進する必要がある。				

●自己評価

評価項目	点 数	基 準	コ メ ン ト	
手段の妥当性	10	☒ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	各種教室、イベントの開催により、多彩なスポーツ・レクリエーションに親しむ場及び選択肢を提供できている。	
手法の効率性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	各加盟団体の協力を得て事業を実施しており、効率的に事業を遂行できている。	
費用対効果	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	子どもから高齢者まで幅広い年齢層に対応しており相当の効果がある。一方、参加者が固定する傾向もみられる。	
目標達成度	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	新型コロナウイルス感染症の影響は大きかったが、生涯スポーツ・レクリエーションの環境を確保できている。	
評価結果	31	A (31点以上) B (30～22点) C (21～13点) D (12点以下)	ランク	A
今後の方向性	☐ : 拡大 ☒ : 現状維持 ☐ : 一部修正 ☐ : 縮小 ☐ : 廃止			

●委員評価

評価項目	点 数	基 準		
手段の適正化	10	☒ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
手法の効率性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
費用対効果	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
目標達成度	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
評価結果	31	A (31点以上) B (30～22点) C (21～13点) D (12点以下)	ランク	A
委員の意見	コロナ禍においても、屋外の活動が多いため、各事業が予定通り実施できている。充実した活動が展開されており、市民の生涯スポーツ推進に大きな役割を果たしている。			

※評価ランクは、A(十分な成果である)、B(概ね良好)、C(改善等を検討)、D(改善が必要)とする。

Ⅳ 施 策 評 価 シ ー ト

施策番号	9-1-②	施策名	スポーツ団体 育成支援事業	主管課	生涯学習課
事業費 (千円) (決算額)	平成30年度 5,120	令和元年度 5,120	令和2年度 3,230	前年度比 △ 1,890	
制度区分	☐ : 補助(国・県) ☒ : 市単独 ☐ : その他				
事業の目的	矢板市スポーツ協会及び矢板市レクリエーション協会に対して財政援助を行い、加盟団体の支援・競技の普及・選手の強化・指導者の養成等を組織的、計画的に取り組むことができるように支援することによってスポーツ・レクリエーションの振興を図り、もって市民一人ひとりが生涯にわたってスポーツ・レクリエーションに親しむことができる場及び選択肢を確保する。				
施策の対象者	矢板市スポーツ協会、矢板市レクリエーション協会				
今年度の目標	矢板市スポーツ協会と矢板市レクリエーション協会に補助金を交付し、自主事業の実施、加盟団体の支援、競技力の向上、指導者の養成等を実施する。特に、いちご一会とちぎ国体に向けたジュニア世代の育成、女子選手の競技参加を促進する。				
施策内容 (実施状況 実施値等)	【矢板市スポーツ協会】補助金3,210千円(当初5,100千円から1,890千円減額) 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、加盟団体の大会開催補助の減少・競技力向上事業の縮小、地区・県民スポーツ大会の中止、スポーツ少年団事業の中止等により支出が大幅に減少。 【矢板市レクリエーション協会】補助金20千円 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、自主事業(ネイチャリング事業)中止。日本レクリエーション協会事業(ウォークラリー)受託開催。				
課 題	・競技人口、裾野の拡大(初心者、未経験者、ジュニア世代の取込み) ・指導者の養成、加盟団体役員の後継者育成、活動が停滞している団体への支援 ・加盟団体以外の競技種目に対する支援 ・国体後のレガシーを活用したスポーツの振興及び競技力の向上				

●自己評価

評価項目	点 数	基 準	コ メ ン ト	
手段の妥当性	10	☒ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	「競技の素人である市」は競技団体の財政基盤の強化支援に徹し、「競技のプロである競技団体」が運営に注力できる仕組みであり、手段は妥当性である。	
手法の効率性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	統括団体への財政援助により、結果として加盟団体を含めて効率的に矢板市のスポーツ・レクリエーション全体の環境整備が行われている。	
費用対効果	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	毎年定額の財政援助で一定の効果が見込まれる。一方、実施事業のマンネリ化の懸念もある。	
目標達成度	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	事業の目的のとおり、各団体の活動を通してスポーツ・レクリエーションの場及び選択肢が確保されている。	
評価結果	31	A (31点以上) B (30~22点) C (21~13点) D (12点以下)	ランク	A
今後の方向性	☐ : 拡大 ☒ : 現状維持 ☐ : 一部修正 ☐ : 縮小 ☐ : 廃止			

●委員評価

評価項目	点 数	基 準		
手段の適正化	10	☒ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
手法の効率性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
費用対効果	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
目標達成度	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
評価結果	31	A (31点以上) B (30~22点) C (21~13点) D (12点以下)	ランク	A
委員の意見	各スポーツ団体では、活動支援金を有効に活用し、各団体の目的に沿った活動を展開している。「いちご一会とちぎ国体」に向けた取り組みも行われており、令和4年度の本大会の活躍に期待したい。			

※評価ランクは、A(十分な成果である)、B(概ね良好)、C(改善等を検討)、D(改善が必要)とする。

Ⅳ 施 策 評 価 シ ー ト

施策番号	10-1-①	施策名	家庭教育推進事業	主管課	生涯学習課
事業費 (千円) (決算額)	平成30年度 215	令和元年度 192	令和2年度 146	前年度比 △46	
制度区分	☐ ：補助(国・県) ☒ ：市単独 ☐ ：その他				
事業の目的	家庭・学校・地域・関係機関との連携を図りながら、子育てしやすい環境づくりと家庭教育力向上を図る。				
施策の対象者	市民				
今年度の目標	・子育て学習の開催 ・家庭教育指導者の育成・活用 ・子ども読書活動推進 ・家庭教育の手引き「子育てナビ」の配布				
施策内容 (実施状況 実施値等)	・保護者対象の子育て学習を、出席率の高い各小学校の就学時健診時に合わせて実施。講師を社会教育指導員や男女共同参画啓発活動団体「グループあい」にお願いしており、家庭教育指導者の育成や活用に繋げている。その際、「子育てナビ」を配布し、就学前の家庭教育について振り返るきっかけづくりを行った。 ・今年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、男女共同参画啓発活動団体「グループあい」によるペープサードはできなかったが、オンラインでの家庭教育学級を実施した。				
課 題	オピニオンリーダー等ボランティアの育成。 家庭教育学級等の機会を増やす。				

●自己評価

評価項目	点 数	基 準	コ メ ン ト	
手段の妥当性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	生涯学習課、社会教育指導員、男女共同参画啓発活動団体、学校支援ボランティア関係が連携して子育て学習事業を実施している。	
手法の効率性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	就学時健診の待ち時間に子育て学習を実施することで、効率的に保護者全員が参加でき、時間の無駄も省略できた。また新型コロナウイルス感染対策として家庭教育学級をオンラインで開催した。	
費用対効果	10	☒ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	就学時健診を受ける子どもの保護者を対象に市内全ての小学校で開催。ほぼ全員の保護者が参加するので有効活用され、効果は高い。	
目標達成度	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	就学児の親子を対象にオンラインで開催した家庭教育学級のアンケートの結果「とても満足」46%「おおむね満足」54%であった。参加者が少なかったため、話しやすく顔見知りになるなど高い効果があった。また父親の参加・協力が見られた。	
評価結果	31	A (31点以上) B (30～22点) C (21～13点) D (12点以下)	ランク	A
今後の方向性	☐ ：拡大 ☒ ：現状維持 ☐ ：一部修正 ☐ ：縮小 ☐ ：廃止			

●委員評価

評価項目	点 数	基 準		
手段の適正化	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
手法の効率性	10	☒ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
費用対効果	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
目標達成度	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
評価結果	31	A (31点以上) B (30～22点) C (21～13点) D (12点以下)	ランク	A
委員の意見	コロナ禍において、オンラインでの研修実施など、工夫が見られて良い。活動内容が充実し、成果も得られているので、継続してほしい。さらなる充実のため、新たなリーダーの育成を期待したい。			

※評価ランクは、A(十分な成果である)、B(概ね良好)、C(改善等を検討)、D(改善が必要)とする。

Ⅳ 施 策 評 価 シ ー ト

施策番号	10-1-①	施策名	家庭教育推進事業	主管課	公民館
事業費 (千円) (決算額)	平成30年度	令和元年度		令和2年度	前年度比
	136	97		69	△28
制度区分	☐ ：補助（国・県） ☒ ：市単独 ☐ ：その他				
事業の目的	事業開始年度：平成11年度 矢板・泉・片岡公民館が主催となり、保護者を対象に子育ての知識や技能の習得を目的として、保護者同士の交流や研修会などを通じ、家庭教育力の向上を図る。				
施策の対象者	小中学生と保護者				
今年度の目標	・子供と保護者が参加しやすい内容を、各公民館で企画し参加者の増に繋げていく。 ・コロナウイルス感染症の感染状況を注視しつつ、感染防止に努めながら事業を実施していく。				
施策内容 (実施状況 実施値等)	○家庭教育学級の開設 ●矢板公民館 ママパパKIDSお楽しみ会（中止） ●泉公民館 親子でnikoチャレ！ 4回 参加者延べ47人 ●片岡公民館 ちびにこ 5回 参加者延べ40人 毎回実施後、アンケートを取り、PDCAサイクルを回している。				
課 題	少子化により、事業の対象者が減少している上、価値観や生活スタイルの多様化など、社会状況の変化により、参加人数が減少している。今後は事業を集約して実施する等の検討が必要である。				

●自己評価

評価項目	点 数	基 準	コ メ ン ト	
手段の妥当性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	子の対象年齢に合わせて、家庭教育学級を開設している。	
手法の効率性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	参加者は少ないが、確実に保護者同士の交流につながっている。	
費用対効果	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	低額の講師謝金で行っている。託児は、ボランティアの協力を得ている。	
目標達成度	4	☐ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☒ やや低い(4) ☐ 低い(1)	コロナウイルス感染症予防により、中止したり、規模を縮小して実施した。	
評価結果	25	A (31点以上) B (30～22点) C (21～13点) D (12点以下)	ランク	B
今後の方向性	☐ ：拡大 ☒ ：現状維持 ☐ ：一部修正 ☐ ：縮小 ☐ ：廃止			

●委員評価

評価項目	点 数	基 準		
手段の適正化	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
手法の効率性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
費用対効果	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
目標達成度	4	☐ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☒ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
評価結果	25	A (31点以上) B (30～22点) C (21～13点) D (12点以下)	ランク	B
委員の意見	子育ての孤立化など家庭教育は、依然として課題が多い。必要な事業であるので、活動内容や募集方法の工夫を行い、より多くの参加者を得て実施してほしい。			

※評価ランクは、A（十分な成果である）、B（概ね良好）、C（改善等を検討）、D（改善が必要）とする。

Ⅳ 施 策 評 価 シ ー ト

施策番号	10-2-①	施策名	青少年活動推進事業	主管課	生涯学習課
事業費 (千円) (決算額)	平成30年度 1,313	令和元年度 428	令和2年度 332	前年度比 △ 96	
制度区分	☐ : 補助(国・県) ☒ : 市単独 ☐ : その他				
事業の目的	事業開始年度: 青少年の地域参画力を高め、自立に向けた力を身に付けさせるため、「心の教育」、「地域づくり」、「まちづくり」の視点に立った体験活動を実施するほか、青少年が地域社会の一員として自覚を高め、積極的な役割を果たすことができるよう青年リーダー研修や社会参画活動を促進する。				
施策の対象者	市内青少年				
今年度の目標	・ふれあいカードを小1～中3まで配布し、地域活動・ボランティア活動への参加を促す。 ・子ども会連合会活動として笠間市との姉妹都市交流会を開催し、体験活動機会の提供及び参加人数の増加を図る。 ・ジュニアリーダースクラブ活動における会員の自主企画事業の実施、及び会員一人一人の自立とコミュニケーション能力の向上を図るための経験を積ませる。				
施策内容 〔実施状況 実施値等〕	・矢板市・笠間市子ども会交流会 (新型コロナウイルス感染拡大により中止) ・ジュニアリーダースクラブ活動 定例会7回、研修会1回、市及び行政区事業協力等2回				
課 題	少子化の影響や子どもの多忙化により、子ども会への加入人数が減少している。 ジュニアリーダー活動においては、行事への参加に偏りがあることと各会員の自立及びコミュニケーション能力の向上が達成できていない。				

●自己評価

評価項目	点 数	基 準	コ メ ン ト	
手段の妥当性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	子ども会連合会活動等を通し、自立心を育み、仲間づくりが出来る体験活動機会を提供できている。	
手法の効率性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)	ふれあいカードの認知が高まり、地域活動やボランティア活動への参加促進がされてきている。	
費用対効果	4	☐ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☒ やや低い(4) ☐ 低い(1)	新型コロナウイルス感染症拡大により、笠間市との交流会が中止となったことにより補助金を減額し、体験活動機会を提供することができなかった。	
目標達成度	4	☐ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☒ やや低い(4) ☐ 低い(1)	新型コロナウイルス感染症拡大により、地域活動ボランティア活動、交流会、研修会等が中止となり、機会の提供などの達成度は、例年と比較しやや低いものとなった。	
評価結果	22	A (31点以上) B (30～22点) C (21～13点) D (12点以下)	ランク	B
今後の方向性	☐ : 拡大 ☒ : 現状維持 ☐ : 一部修正 ☐ : 縮小 ☐ : 廃止			

●委員評価

評価項目	点 数	基 準		
手段の適正化	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
手法の効率性	7	☐ 高い(10) ☒ やや高い(7) ☐ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
費用対効果	4	☐ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☒ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
目標達成度	4	☐ 高い(10) ☐ やや高い(7) ☒ やや低い(4) ☐ 低い(1)		
評価結果	22	A (31点以上) B (30～22点) C (21～13点) D (12点以下)	ランク	B
委員の意見	コロナ禍により、活動の場が制限される中ではあるが、ジュニアリーダースクラブの組織と活動の充実を図ってほしい。そのためには、核となるリーダーの育成が欠かせないので、青少年の社会参画活動促進に尽力いただきたい。			

※評価ランクは、A(十分な成果である)、B(概ね良好)、C(改善等を検討)、D(改善が必要)とする。

矢板市教育行政事務点検評価委員会設置要綱

（設置及び目的）

第1条 矢板市教育委員会（以下「教育委員会」という。）は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条第1項に規定する教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価（以下「事務の点検評価」という。）を行うにあたり、同条第2項の規定に基づき、教育に関し学識経験を有する者の知見を活用するため、矢板市教育行政事務点検評価委員会（以下「点検評価委員会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第2条 点検評価委員会は、次に掲げる事項について、事務の点検評価を行い、その結果を教育委員会に報告する。

- （1）教育委員会の基本方針に基づき行う主要施策に関すること。
- （2）その他教育委員会が必要と認める事項に関すること。

（組織）

第3条 点検評価委員会は、委員3人以内で組織する。

2 委員は、教育に関し学識経験を有する者のうちから、教育委員会が委嘱する。

（任期）

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任することができる。

（委員長）

第5条 点検評価委員会に委員長を置く。

2 委員長は、委員の互選により定める。

3 委員長は、会務を総括し点検評価委員会を代表する。

4 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指定した委員がその職務を代理する。

（会議）

第6条 点検評価委員会は、委員長が招集し議長となる。

2 点検評価委員会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことはできない。

3 検討委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴きまたは、必要な資料等の提出を求めることができる。

(事務局)

第7条 点検評価委員会の庶務は、教育委員会事務局教育総務課において処理する。

(補則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、点検評価委員会の運営に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

この要綱は、公布の日から施行する。

令和3年度 矢板市教育委員会の点検・評価報告書

発行／令和3年9月

矢板市教育委員会事務局 教育部教育総務課
電話 0287-43-6217 FAX 0287-43-4432
E-mail:kyouiku@city.yaita.tochigi.jp